

【授業科目】助産技術学 Midwifery Technique

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開
高塚 麻由、日比 千恵 野内 香純、鈴木 茉央		4 年次 前 期	選 択	3	4 5	演 習	あり	巻末 掲載	否
授業概要 (内容と進め 方) 及び 課題に対するフ ィードバック 方法	授業概要／母児ともに安全でポジティブな出産体験となるよう、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期における基礎的な助産技術について学ぶ。分娩期にある対象に必要な助産ケアでは、根拠に基づいた経腔分娩の介助技術を習得する。また、シミュレーションやグループワーク、OSCE（客観的臨床能力試験）等の授業形態をとおして、基礎的な助産技術の習得のみならず、助産の対象を尊重する態度について培う。授業全般にわたるグループワークにより、主体的・積極的に学修する力、メンバーとの協働学習による探求する力や学びを深める力、さらに自己の内省と課題解決の力を培う。※実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法／レポート・シミュレーションセッション時の講評。助産技術の技術試験を行う。								
実務経験に関す る授業内容	助産師の臨床経験をもつ教員が、助産師として必要な妊娠・分娩・産褥・新生児期の基礎的な助産技術について、グループワークや演習を通して学生自身が探索しながら学ぶことができるよう指導していく科目である。								
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	① 妊娠期にある対象の支援に必要な基礎的な助産技術をグループメンバーで検討し、実施できる。 ② 分娩期にある対象の支援に必要な基礎的な助産技術をグループメンバーで検討し、実施できる。 ③ 経腔分娩の介助に必要な基礎的な助産技術をグループメンバーで検討し、習得することができる。 ④ 産褥・新生児期にある対象の支援に必要な基礎的な助産技術をグループメンバーで検討し、実施できる。 ⑤ 助産の対象を全人的に捉える能力を培いながら、対象を尊重した態度を習得することができる。								
時間外学習に 必要な 内容・時間	第1～23回事前学習：母性看護学概論、母性看護援助論II、母性看護学実習、周産期医学、助産診断学各30分 第1～23回事後学習：学習した内容を教科書で調べなおし、自己学習ノートにまとめる。ノートは助産学実習で使用できるように工夫して作成すること。分娩介助技術は各自繰り返し演習すること。（各60分）								
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。								
授業計画	第 1-2 回 第 3-4 回 第 5-7 回 第 8-10 回 第 11-13 回 第 14-16 回 第 17-19 回 第 20-22 回 第 23 回	助産師が行う妊娠期、分娩期、産褥・新生児期のケアとは（GW） 妊娠期に必要な援助技術と OSCE（妊婦健康診査）、コミュニケーションスキル 分娩期に必要な援助技術①分娩第1期の産婦の観察と助産ケア（GW） 分娩期に必要な援助技術②経腔分娩の介助に必要な準備（GW） 物品準備、無菌操作、ガウンテクニック、外陰部消毒、分娩野作成 分娩期に必要な援助技術③経腔分娩の介助から出生直後の児の看護（GW） 分娩期に必要な援助技術④胎盤娩出の介助から分娩第4期の看護、胎盤計測（GW） 分娩期に必要な援助技術⑤経腔分娩の介助技術、助産ケア（GW） 分娩期に必要な援助技術⑥経腔分娩の介助技術、助産ケア（GW） 親子関係形成の支援、母乳育児支援に必要な知識を生かした支援（GW） 分娩介助技術評価							第1-23回 高塚 日比 野内 鈴木
評価方法 評価基準	定期試験 70%、分娩介助技術 10%、OSCE 10%、演習参加態度/グループディスカッション 10%								
教科書	1) 助産学講座 5 助産診断・技術学I 2) 助産学講座 6 助産診断・技術学II〔1〕妊娠期 3) 助産学講座 7 助産診断・技術学II〔2〕分娩期・ 産褥期 4) 助産学講座 8 助産診断・技術学II〔3〕新生児 期・乳幼児期、医学書院 5) 今日の助産 改訂第4版、北川眞理子、南江堂 6) 胎児心拍数モニタリング講座、藤森敬也、メデ ィカ出版				参考書等	最新産科学 正常編/異常編 荒木勤 文光堂 助産師基礎教育テキスト 2025年版 第4～6巻 日本看護協会出版 正常分娩の助産術 進純郎他 医学書院 助産外来の健診技術 進純郎他 医学書院 産婦人科診療ガイドライン産科編2023 日本産 科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修 母乳育児支援スタンダード 第2版 NPO法人 日本ラクテーション・コンサルタント協会 医 学書院			
学生への 助言等	助産学実習は、分娩介助技術試験に合格することが必須となります。事前学習が多くあります。グループワーク（GW）、シミュレーションには事前学習を十分に行って臨み、積極的なディスカッションによりお互いに学びを深められるよう努力してください。								